

# マスコミ文化情報

## 労組会議 No.001 2007 3.26

編集発行：MIC-UNIONS  
日本マスコミ文化情報労組会議  
JAPAN CONGRESS OF MASSMEDIA,  
INFORMATION & CULTURE  
WORKER'S UNIONS  
東京都文京区本郷2-10-9富士ビル3F  
TEL.03-3816-2988 FAX.03-3816-2993  
E-mail:mic@union-net.or.jp  
http://www.union-net.or.jp/mic/

## 07 春闘勝利！ 憲法改悪・国民投票法案阻止！ 労働法制改悪反対！ MIC2007 春闘決起集会

2007年3月15日の午後6時半から牛込筆筒区民センターで MIC2007 春闘決起集会が開催され、約330人が参加しました。冒頭、ピアノ：元岡一英さん・ウッドベース小杉敏さんのジャズ演奏で開会しました。

### 議長挨拶

続いて嵯峨 MIC 議長が挨拶を行いました。

「大手各社の回答が出ました。500～1000円のベアを取った、ということで評価する向きがあります。しかし、新聞の論調を見ると『労組、追い風を生かせず。好景気、薄い恩恵。労組、意気込み空回り』と総じて厳しい判断をしています」(写真：議長挨拶)

「史上空前の利益を上げている企業がある。格差社会をなくそう、という世論の動きがある。こういう盛り上がりの中で去年なみの賃上げしか取れなかった。どうしたことなのでしょう？ とりわけふがないと思っているのは、自動車大手の会社です。

去年と同じベアにとどまっています。トップ企業のベアというのは、一つの会社の問題ではなくて労働者全体に関わってくるわけです。ここが頑張ってくれないとその下に控えている各産業、中小零細企業に至るまで打撃を受けます。大手企業の賃上げがあった昨春闘でも中小零細は月例賃金は下がっています。大手が頑張らないと下に恩恵がいかないわけです。消費拡大も進んでいかない。その時に労働組合の底力を発揮できなかった。経営陣は『国際競争力の強化』と主張しますが、組合側は反論できませんでした。納得してしまっている」



「この春闘を見越したように日経ビジネスが、特集『こんな労組要らない』を掲載しました。組合活動に対する不信感が頂点に達しています」

「我々は『納得力』のある組合ではもう駄目だ、ということ突きつけられています。本当の組合の力がこの春闘では試されている。ホワイトカラー・エグゼンプションは導入されませんでした。これは運動の成果というよりは選挙への影響を懸念した結果だと思えます。しかし、労働法制の改悪は目白押しです。それに対して『労働ビッグバン』というまいネーミングだけが、一人歩きし

ています。これに対して我々はどう闘えるのか？ 組合が信頼を勝ち得る闘いをしなければ、経営側の横暴を許してしまう。そういう危機的な状況を迎えて本当の意味での労働組合・労働運動が試されている春闘だと思えます。今日の集まりがその弾みになるように

祈っております」

労働組合・労働運動の在り方が問い直される今春闘であることを強調して挨拶を締めくくりました。

### 特別報告

次に電算労の篠塚事務局長が「派遣・請負の現状と問題点」として特別報告を行いました。

「情報サービス産業は事業高が14兆円、就業者が57万人、その中で個人事業主と言われている人が1万3千人、派遣で働く人が3万6千人いると政府の統計では発表されています。建設業とよ

く似ていると思うのですが、多重の下請け構造になっています。元請けがコンピューター・メーカーに発注して、そこから中小のソフト会社にされて、最終的には個人事業主が仕事を受ける。もう一つの特徴は受注産業ということで客先常駐が多いことです。電算労のアンケートでは 20 年前は 27% が客先常駐、10 年前は 40% ほどに増えていきます。最近の常駐比率を見ますとだいたい 50% の人が客先常駐で働いています。多重構造でなおかつ客先常駐ですから、指揮命令を派遣会社よりも元請けの会社から受けやすい土壌があります。(写真：篠塚電算労事務局長)



職業安定法 44 条『人の就労に介入してピンハネをやってはいけない』とされています。しかし、法律違反の状態が、業界の中では蔓延しています。その中で中小のソフトウェア会社はどうするか？ 現状ではリスクを負う請負よりも人貸し業の方が安定収入になってしまっています。労働局の指導はいろいろ入っていますが、この間、あまり改善は見られません。個人事業主は経済的には元請けに従属しています。昨年 ILO が『雇用の範囲として経済的に従属していれば労働者である』という勧告を出しました。日本の労働行政は『毎月給料が出るのか』『指揮命令は？』という観点からしか見ていませんが、『経済的な従属があれば雇用関係にある』という考えが世界標準になっています。こういう考えを取り入れて、法律や諸制度改正を求めていくことが必要だと思います」

情報サービス産業の抱える構造的な問題点を指摘し、法制や諸制度の改正の必要性を訴えました。

### 特別講演

次に佐高信氏に「メディアに何が欠けているか？」という特別講演を行っていただきました。「会社についてのメディアの見方が弱くなっている。そのことが民営化というのをそのまま通してしまったことに繋がった。民営化 = 会社化ですが、民営化 = 善みたいな小泉のプロパガンダが行われて、それが通ってしまった。会社は今、様々な問題を起こしています。その点に対するメディアの

視点が、かなり欠けていたのではないか。」

「新聞でも小泉・竹中の構造改革論を支持していた部分がありました。表では護憲の流れを支持しても、裏にある経済の問題に切り込むべきだった。政治と経済は、表裏一体なんです。竹中の構造改革には、さまざまな利権の構造が複雑にからまっていた。しかし、逮捕されたのは、村上ファンドと堀江だけです。それ以外の部分は見過ごされてしまいました。表向きの護憲の流れを作る運動も必要ですが、もっと物事の本質を見抜いてほしい。そしてマスコミが本質を追求することが必要である。」

政財界の構造の問題点の本質に迫り切れていないマスメディアの在り方に疑問を投げかけました。そのことが改憲の流れを止められない原因の一端であると指摘しました。

「資本主義の一番の基本は、競争です。競争というのはスタートラインが一緒じゃないと競争にならないわけです。大学生と幼稚園児が競争ではなく、せめて高校生と中学生の競争にしないといけない。だから独占禁止法がある。端的に言えば、勝ち組を分割するということです。勝ち組を分割しないと平等にならないということが資本主義の憲法



= 独禁法に書いてある。(写真：佐高氏)

だから勝ち組の独占企業を分割することこそ本当の『再チャレンジ』です。今、安倍首相が言っていることは勝ち組はそのままにして、負け組に誤魔化しの対処療法を行おうとしている。『再チャレンジを言うなら、独禁法で独占企業を分割して公正な競争をすべきである』と攻めないといけない。しかし、メディアの矛先がそちらにむいていない」

大企業の独占にマスメディアが警鐘を鳴らしていくことの重要性を訴えました

### MIC 各単産紹介

今回から初めての試みですが、MIC 全体に知ってもらうためにそれぞれの単産の代表の紹介と各単産の今春闘のポイントをそれぞれ説明していただきました。

新聞労連：嵯峨委員長

「春闘については、我々の労働条件改善というのがありますが、特に非正規雇用の方たちの賃上げ・労働条件の改善に今回は力を入れています。我々は『社会の格差、職場の格差をなくそう』ということを中心にスローガンにしています。非正規・派遣・パートの方たちにもっと手をさしのべて、一緒に共闘していくことを考えています」

映演労連：高橋委員長

「大幅賃上げはもちろんですが、東映は60歳以降の雇用と引き替えに大幅な退職金の引き下げに迫られています。新聞では労働契約法案を閣議決定したと伝えていますが、経営が一方的に就業規則を変えられるという法案です。ホワイトカラー・エグゼンプションは先送りになりましたが、この法案が通過したら、東映の裁判自体の意味がなくなり、労働組合の意味も半減すると思います。映演労連は、労働法制改悪阻止を今春闘の最大の課題として闘っていきたいと思います」



全印総連：加藤委員長

「全印総連はスローガンで『厳しい情勢を力に変え、平和を守り格差と貧困をなくそう』ということで今年の春闘に取り組んでいます。特に企業内の非正規も含めた均等待遇に力を入れています。『企業内最賃協定を結ぼう』という運動を進めています。東京地連では目標の時給1000円で2単組が協定を結びました。我々の賃上げと一緒に均等待遇の実現も勝ち取っていきたいと思います。」

電算労：小林議長

「電算労傘下の組合員からアンケートを集めました。その結果、34歳平均27,000円(8%up)の統一要求を掲げています。『欲しい額を要求する』というのが、労働組合の本来の在り方だと思います。東和システムでは組合員を管理職に棚上げして、残業代を支払っていませんでした。精査すると組合員3名の未払い残業代の合計が1億円を超えていました。来週には東京地裁に上訴しま

す。今後、新たなご支援を皆様をお願いすることになるとは思いますが、よろしくをお願いします」

民放労連：碓氷委員長

「今年の春闘の第1の目標としては『有額ペアを勝ち取ろう』としています。ペアが獲得できなくなって4~5年経ち、組合員の中からペアを知らない世代が執行部を担ってペアの交渉をしなくてはならない時代になっています。今春闘は是非ともペアを勝ち取っていきたいと思います。それから格差是正が大きな課題の一つです。放送局の

正社員の賃金と下請け・孫請けの社員の人たちの賃金、派遣や請負で働いている人たちの賃金が非常に大きな格差になっています。7~10倍の賃金の格差が現実のものとしてあります。関西テレビの捏造問題の根底にも制作プロダクションとの格差の問題があります。こういう実態を改善していけないといけないと思っています」

出版労連：津田委員長

「格差是正を今年の春闘の大きな課題に掲げています。出版は3分の1の人間がフリーの人間です。その方たちの存在なくして、産業として成り立たなくなっています。昨年までの要求を引き上げて時給1,300円の要求を掲げています。昨年は教基法改悪、今春闘は改憲手続法案・労働法制改悪の流れが続いていますが、引き続き反対していきます。今、書店・取次の業界も非常に厳しくなっています。出版業界一丸となって『産業再生』をキーワードに闘っていきたいと思います」

音楽ユニオン：川本事務局長

「音楽ユニオンはオーケストラの楽団員とフリーの演奏家で成り立っています。フリーの演奏家がCDの録音に参加するのに1時間8,344円のギャランティが最賃になっています。これは5年間据え置かれていました。昨日8,400円で妥結しました。56円上げるのに5年間かかっています。税金や手数料を抜かれるとさらに落ちます。これで文化を支えられるのかという疑問を持っています。今後とも毎年賃上げの獲得ができるように闘っていきます」



## まとめと行動提起

続いて橘田事務局長がまとめと行動提起を行いました。

「今日は 07 春闘の第 1 波ということで、昼に 200 名が参加して神保町へデモを行いました。07 春闘は今日を皮切りに頑張っていきたいと思いません。今日は佐高先生からメディアに対する様々な問いかけがありました。メディアの本来果たすべき役割について再度考えられました。『あるある大辞典』の捏造問題、新聞の論説委員の盗用事件も起きています。私たちの仕事に対していろんな見方がされるのは当然だと思います。メディアに携わる自覚とその責任を果たして、私たちの仕事が成り立っていると考えています。MIC としてはメディアに対する期待に応える運動を作っていくたいと思います。07 春闘は格差の問題、労働法制の問題、それから改憲手続き法が緊迫した事態にある。それらが我々の仕事に直接関係があります。MIC 全体でこれらの問題に取り組みたいと思います。今日のこの集会を契機として団結して頑張っていきたいと思いません」

## 争議団紹介

続いて MIC 争議団が壇上に上がり支援を訴えました。

中山書店(出版労連・出版情報関連ユニオン)、協和出版販売労働組合(出版労連)、ジャパンヴィステック争議(映演共闘・映演アニメユニオン)、20 世紀フォックス HE・金子解雇闘争(映演共闘・全洋労)、東映退職金カット裁判闘争(映演労連・全東映労連)、一橋出版 = マイスタッフ争議(出版労連・出版情報関連ユニオン)、オリコン鳥賀陽裁判(出版労連・出版ネッツ)



全東映労連の坂西さんが集会アピール案を提案して、会場の拍手で採択されました。最後に松本純子さん(ジャパンヴィステック争議)が団結ガンバローを行って、集会を締めくくりました。

## MIC・千代田春闘共闘

### 3・15 昼休みデモ・千代田総行動

3 月 15 日の夜の春闘決起集会に先立って「07 春闘勝利！ 憲法改悪・国民投票法案阻止！ 労働法制改悪反対！ MIC・千代田春闘共闘 3・15 昼休みデモ・千代田総行動」が行われ、200 名が参加しました。錦華公園に集合、嵯峨議長が「経営と対峙する力を取り戻して、本当の意味での闘う春闘にしよう」と訴えました。(下写真：議長挨拶)



午後 12 時 10 分には錦華公園を出発して、靖国通りでデモ行進を行いました。「2007 年春闘に勝利しよう！」「働くものの権利を守ろう！」「派遣社員やパート労働者の権利を向上させよう！」「均等待遇を実現しよう！」「労働条件の切下げ反対！」「争議組合を勝利させよう！」「本を読むゆとりをつくろう！」などのシュプレヒコールが本の町・神保町に響きました。



(写真：横断幕を持つ各単産代表)